

高知工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	建築計画II	
科目基礎情報							
科目番号	5574			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境都市デザイン工学科			対象学年	5		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書： 1級建築士学科新体系テキスト (TAC) 参考書：プリント、 第3版コンパクト建築設計資料集成 (日本建築学会)						
担当教員	三橋 修						
到達目標							
1. 各種施設建築に関する設計資料を適切に活用することができる。 2. 各種施設建築の設計のプロセス、および設計に必要な諸要素を説明することができる。 3. 演習を通して各種施設建築の社会的背景や計画上的特徴について説明することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	各種施設建築に関する設計資料を適切に活用し、設計に取り組むことができる。			各種施設建築に関する設計資料を適切に活用することができる。		各種施設建築に関する設計資料を適切に活用することができない。	
評価項目2	各種施設建築の設計のプロセス、および設計に必要な諸要素を用いて設計に取り組むことができる。			各種施設建築の設計のプロセス、および設計に必要な諸要素を説明することができる。		各種施設建築の設計のプロセス、および設計に必要な諸要素を説明することができない。	
評価項目3	演習を通して各種施設建築の社会的背景や計画上的特徴について説明することができ、課題解決に向けて考察することができる。			演習を通して各種施設建築の社会的背景や計画上的特徴について説明することができる。		演習を通して各種施設建築の社会的背景や計画上的特徴について説明することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 (B) JABEE評価 基準1(2)(d)(3)							
教育方法等							
概要	私たちの身のまわりにある公共建築、商業建築、町などに興味・関心を持ち、そこでの営みや環境などを工学的にとらえる力を身につける。そして、建築設計を実践できる、さまざまな知識や技術などについて理解を深め、自ら建築設計創造することができる能力を養う。						
授業の進め方・方法	本授業では、①講義、プレゼンテーション、およびミニワークにより建築設計に必要な知識を学んだ上で（理論の教授）、②建築設計課題に取り組むことで、知識の定着及び活用を図る（実践による知識の定着・活用）ことを目指す。【事前・事後学習】事前学習として教科書の該当部分（事前に説明）を読んだうえで指定のプリントに理解が難しかった部分を抜き出してまとめて授業に臨むこと。また、事後授業として授業内で指示した課題を提出すること。その課題とした演習問題については、周りの学生とディスカッションしたりして、自分なりの解答を提出すること。【学修単位科目（授業時間外の学習時間等）】本科目は学修単位科目（授業30時間＋自学自習60時間）のため、以下の標準学習時間を設定した自主学習時間45時間以上実施して提出しなければ、成績60点を越えた場合でも59点として扱い、単位を認定しない。 ・全15回の授業に対して、0.5時間の事前学習と、1.5時間の事後学習。計30時間。 ・中間試験、および期末試験に対してそれぞれ試験勉強のための課題学習時間4時間。計8時間分。 ・長期の休業中に総まとめ課題として7時間分。 【学修単位科目（授業時間外の学習時間等）】本科目は学修単位科目（授業30時間＋自学自習60時間）のため、以下の標準学習時間を設定した自主学習時間45時間以上実施して提出しなければ、成績60点を越えた場合でも59点として扱い、単位を認定しない。・全15回の授業に対して、0.5時間の事前学習と、1.5時間の事後学習。計30時間。・中間試験、および期末試験に対してそれぞれ試験勉強のための課題学習時間4時間。計8時間分。・長期の休業中に総まとめ課題として7時間分。						
注意点	【成績評価の基準・方法】 試験の成績を60％、平素の学習状況等（課題・小テスト・プレゼンテーション等を含む）を40％の割合で総合的に評価する。成績評価は、中間と期末の各期間の評価の平均とする。学年の評価は学期末の評価とする。技術者が身につけるべき専門基礎として、到達目標に対する達成度を評価する【履修上の注意】 この科目を履修するに当たり、5年生の建築計画Ⅰの内容を十分に理解しておくこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	建築計画の考え方、及び様々な空間に対応した人間の活動について学ぶ。		各種施設建築を設計する際に必要な諸要素及びプロセスを理解するとともに、様々な空間における人間の活動を記述することができる。		
		2週	業務施設：オフィス建築の計画手法について学ぶ。		オフィス建築の必要諸室や動線計画など、基本的な計画手法について説明できる。		
		3週	教育施設：現代の教育施設の計画手法について学ぶ。		現代の教育施設の計画上的特徴や分類について、図を用いて説明することができる。		
		4週	教育施設：学校建築の歴史的変遷と計画上的特徴についてプレゼンテーション・意見交換を行う。		学校建築の歴史的変遷と計画上的特徴を、資料をもとに説明することができる。		
		5週	就学前乳幼児施設：就学前乳幼児施設計画について学び、事例分析を行う。		就学時前乳幼児施設について、必要諸室やその組み立て方、考慮すべき点について分析できる。		
		6週	就学前乳幼児施設の計画の事例についてプレゼンテーション・意見交換を行う。		就学時前乳幼児施設について、必要諸室やその組み立て方、考慮すべき点について説明できる。		
		7週	高齢者施設：高齢者施設の計画手法について学ぶ。		高齢者施設の機能特性や構成方法など、基本的な計画手法について説明できる。		
		8週	医療施設：診療所・病院の計画手法について学ぶ。		診療所・病院における各機能の組み立て方や必要寸法など基本的な計画手法について説明できる。		
	4thQ	9週	文化施設：美術館・博物館の計画手法について学ぶ。		美術館・博物館の必要諸室や動線計画など、基本的な計画手法について説明できる。		

		10週	文化施設：美術館・博物館の事例についてプレゼンテーション・意見交換を行う。	美術館・博物館の必要諸室や動線計画など、基本的な計画手法について説明できる。
		11週	図書館：図書館の計画手法について学ぶ。	図書館の必要諸室や動線計画など、基本的な計画手法について説明できる。
		12週	交流施設：各種交流施設の計画手法について学ぶ。	交流施設の歴史的変遷および現代的意義を理解し、事例をもとに基本的な計画手法を分析できる。
		13週	商業施設：商業建築（ショップ等）の計画手法について学ぶ。	商業建築の必要諸室や動線計画など、基本的な計画手法について説明できる。
		14週	宿泊施設：旅館、ホテル、及び民泊施設の計画手法について学ぶ。	宿泊施設の必要諸室や動線計画など、基本的な計画手法について説明できる。
		15週	試験返却・解説・建築事例のプレゼンテーション	各自が調べてきた各種施設について説明することができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	計画・歴史	建築協定・緑化協定などの住民参加・協働のまちづくりの体制について説明できる。	2	
				教育や福祉系の施設(例えば、小学校、保育所、幼稚園、中・高・大学など)あるいは類似施設の計画について説明できる。	3	
				文化・交流系の施設(例えば、美術館、博物館、図書館など)あるいは類似施設の計画について説明できる。	3	
				医療・業務系の施設(例えば、オフィスビル、病院、オーディトリウム、宿泊施設等)あるいは類似施設の計画について説明できる。	3	
				建築計画・設計の手法一般について説明できる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	提出物	合計
総合評価割合	60	20	0	0	0	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	20	0	0	0	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0